Orange Breeze
出水市教育委員会だより　令和4年11月28日　No.190

出水市では「読書活動日本一のまちづくり」を目指して、様々な取組を行っています。各学校でも、工夫を凝らした取組がなされていますね。ところで、読書好きな子供って、なぜ読書が好きになったのでしょうね。今回の特集は、そんな「読書好きを育てるヒント」について紹介していきます。

読書好きを育てるヒントとは

国立青少年教育研究センターは、子供のころの読み聞かせや読書活動の実態、読書活動が大人になった現在の**意識・非認知能力**※に与える影響、それに読書活動を形成する要因を検証するために、全国の 20～60 代の男女 5,000 名を対象に、令和３年３月に調査を実施しました。その結果、次のようなことが分かりました。

① 子供の頃の読書量が多い人は、意識・非認知能力と認知機能が高い傾向にある。
② **興味・関心に合わせた読書経験が多いほど、小中高を通した読書量が多い傾向にある。**
③ 年代に関係なく、本（紙媒体）を読まない人が増えている。
④ スマホやタブレットなどのデバイスを使った読書は増えている。
⑤ 他の読書方法に比べ、本(紙媒体)で読書している人の意識・非認知能力は最も高い傾向がある。

②の結果の「読書好き」を育てるヒントは、以下のように分析されています。

○本を持ち歩いて読むこと
○地域の図書館で本を借りたこと
○ジャンルを問わず読むこと
○同じ本を繰り返し読むこと
○目次、前書き、解説など本文以外の部分も読むこと
○図書委員、子供図書、読書コンシェルジュの活動をしたこと
○絵本を読んだこと

小中高を通した読書量の多さと関連

● １日に読むページを決めて読むこと
●著者がどのような人か理解してから読むこと
●学校や市の推薦図書を読むこと

小中高を通した読書量の少なさと関連

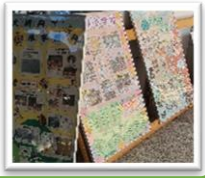
右上の項目は、自由で楽しい読書を妨げてしまう可能性があると考えられると結論付けています。大人が、読む本を指定したり、読ませたい本を与えたりするよりも、**左上の項目**のように、主体的に本を選ばせ、楽しく読ませることに主眼を置くことによって、子供の積極的な読書活動につながると考えられます。

※「意識・非認知能力」とは

「意識・非認知能力」とは、積極性や粘り強さ、リーダーシップ、やる気など、数値では測りにくい能力のことで、国立青少年教育研究センターは、以下の３つで表しています。
自己理解力……「今の自分が好きだ」「自分には自分らしさがある」など自己肯定感を含む
批判的思考力…「ものごとを順序立てて考えることが得意だ」など、客観的、多面的、論理的に考える力、自分あるいは他者の意見をまとめる力、コミュニケーション能力を含む
主体的行動力…「分からないことはそのままにしないで調べる」など何事にも進んで取り組む姿勢や意欲

出水駅新幹線コンコースの読書パネル

出水駅新幹線口のコンコースには、各学校の読書活動の取組を「読書活動実践事例パネル」にして、設置しています。出水市を訪れた方に、「読書活動日本一のまちづくり」を目指した取組の一端を紹介しています。各学校の取組にも読書好きを育てる仕掛けがいっぱいです。



これまでに以下の団体の熱心な読書活動の取組が表彰されました。

文部科学大臣賞：子ども読書活動優秀実践校・団体
☆平成 18 年　出水市立下水流小学校
☆平成 19 年　出水市立図書館
☆平成 21 年　そらいろのたね（読み聞かせグループ）
☆平成 22 年　出水市立出水小学校
☆平成 24 年　県立野田女子高等学校
☆平成 28 年　出水市立大川内小学校
☆平成 31 年　出水市立切通小学校
☆令和　２年　紙ふうせん（読み聞かせグループ）
☆令和　３年　出水市立出水中学校

髙橋松之助記念大賞
☆平成 23 年　出水市（文字・活字文化推進大賞）
☆令和 元 年　出水商業高等学校（朝の読書大賞）
☆令和 元 年　出水市立西出水小学校（朝の読書大賞）

受賞おめでとうございます！！

NHKみんなのうた「おしりかじり虫」生みの親と出水の干潟で発見された甲殻類「オシリカジリムシ」の名付け親　二人の初対面トークの行方は？

10 月 29 日に開催された「令和 4 年度読書活動日本一のまちづくり推進大会」の記念講演の中から、NHK みんなのうたでヒットした、「おしりかじり虫のうた」の作者うるまでるびのうるま氏と「オシリカジリムシ」を発見した鹿児島大学の上野大輔准教授とのミニトークを紹介します。

まずは、お二人を結び付けた「オシリカジリムシ」の命名について、話が始まりました。出水の干潟にいたハゼの、まさにお尻にくっついていた小さな甲殻類を発見した上野准教授は、それが新種だとわかると、名前はオシリカジリムシしかないと思い、うるま氏にメールを送ったそうです。

うるま氏は「おもしろいからやっちゃって」と二つ返事で返されましたが、最終的にはＮＨＫに問い合わせて許可が出て、国際命名規約の審査を受けて、晴れて「オシリカジリムシ」になったということです。正式名は「オシリカジリムシ科オシリカジリムシ属オシリカジリムシ」なのだそうです。オシリカジリムシはその後４匹発見されたそうです。

次は、読書好きなお二人の子供の頃に読んだ本について、話が弾みました。上野准教授は、昆虫の本をよく読んでいたそうです。それに対してうるま氏は、世界妖怪図鑑や日本妖怪図鑑、探偵明智シリーズ、エルマーとりゅうなど、ちょっと怖いけれどもワクワクドキドキするような本を好んで読んでいたそうです。さらに、絵を描くことの楽しみを得たのは、お絵かき教室の先生に褒められたことによるものであるともおっしゃられました。

講演の中で、うるま氏はスクリーンに「Child at Heart」(子供の心を持った人)というキーワードを示され、大人になっても子供心を決して忘れないで、時々その子供心を満足させることをやってみること、そして「自分の子供心に尋ねてみる」ことが大切で、何かに打ち込んでその子供心を後押ししてみてはと話をされました。

上野准教授は、琉球大学を卒業後、海洋生物に寄生する動物の世界に魅了され専門に研究を続けられています。研究のために世界中に行けることが楽しみであると話をされました。

子供心を忘れていないお二人のお話は、実はこの後、場所を変えて、夜遅くまで続いたのでした。

子育て支援室「にじいろ」に集まれ

出水市では、これからの社会を担う子供たちやママたちパパたちをサポートするために、子育て支援室「にじいろ」を開設しています。子育てに悩んだり迷ったり、誰もが通る道。そんな悩みや迷いに、保健師、助産師、保育士が優しく対応してくれています。子育てをしている親子同士の交流もできます。０歳から未就学児は誰でも利用できます。

「にじいろ」では、毎週火曜日(11:10~11:30)と金曜日(11:00~11:30)に「ふれあいたーいむ」という時間を設け、絵本の読み聞かせや・歌遊びふれあいあそびを紹介しています。

保育士さんが読んでくれる絵本を、大きな目をくりくりさせて見ている乳児たちの姿が微笑ましかったです。本の意味や内容が分からなくても、鮮やかな色遣いや読んでいる人の優しい声色を聞いて反応していました。本好きになる第一歩ですね。

出水市在住の童話作家はどんな人？

出水市在住の童話作家、季巳明代（きみあきよ）さんにお会いして、読書好きになるヒントをお伺いしました。

童話作家になるきっかけは、保育士の時の体験だったそうです。園児に「トイレのスリッパを並べなさい」と言うだけでは並べられず、ある時、スリッパを主人公にお話を作って園児に聞かせたところ、並べられるようになったことから、お話を作る楽しさを覚え、自作の童話作品をコンクールに出すようになったそうです。コンクールの受賞作が出版社に認められ、1982 年に童話作家としてデビュー以来、多くの作品を出版されています。季巳さんの作品は、人として大切にしなければならないテーマが描かれており、日本のみならず、台湾、中国、韓国、ベトナムでも翻訳されたものが出版されるほど著名な作家として活動されています。

読書が好きになったお話も伺うことができました。本屋で買ってもらった「ぶんぶく茶釜」のお話を、母親が声色を変えたり表現豊かに読んだりして、大好きになったことからだと教えてくださいました。何度も読んでもらったそうです。

童話を作るときは子供心を忘れず、子供の目線で考えるようにしていると教えてくださいました。

皆さんも是非、季巳さんの作品を読んでみてはいかがでしょうか。